

魅力紹介◎

宮城自治研、ここがすごい！

3・11後初の被災地での開催となる宮城自治研全国集会。企画段階から携わってきた若き自治研中央推進委員のお二人に、宮城自治研のポイントをご紹介いただきます。

Q1

今回の自治研集会は、東日本大震災で大きな被害を受けた宮城での開催となります。被災地での開催に込められた想いを教えてください。



自治労愛媛県本部
自治研中央推進委員
西尾祥之

れています。②開催地の東北・宮城の視

佐野 ● 東日本大震災の今までの復旧・復興の根幹には、地元の人々の協力はもちろん、自治体職場で働く人たちの存在があります。私たち公共サービスを担う現場で働く者が、震災での出来事を風化させないこと、あらためて防災意識や地域のあり方を考える機会として、この地での開催があると思います。

また、自治研活動は、幅広いテーマを

いろいろな職種の人が年齢層も関係なく関われる組合活動です。ぜひ宮城でいろんな方と議論を交わして欲しいです。

西尾 ● 三つあげたいと思います。①震災から五年。報道が少なくなるなかで、本集会在「被災地の、過去と未来を結ぶ、今」を見て・感じて・考える……そんな契機となるように、という想いが込めら

点としては、被災地を代表して、この集会の開催を通じて感謝と決意を全国に届けたという願いが込められています。

また、③生き方・自治・地域づくりなどについては、東北に新しい萌芽があります。持続可能な魅力ある地域をどう創るかを考えるにあたって、みんなでその芽を見つめ、考えていきたいという想いもあります。

Q2

今回の宮城自治研集会は、企画段階からこれまでと異なる新しい工夫がされたところかがありましたか、どのように企画が進められたのでしょうか。

佐野 ● 主役は初心者である。とか、青年層や女性もどんどん巻き込んでいこう、といった話が議論のなかでもたくさん聞かれました。今や自治研は、ある一部の人が研究活動として行うものではなく、組合員や地域の人を巻き込んでの地域おこしの役割を担いつつあります。

西尾 ● コンセプトや企画は、推進委員会における課題提出や毎回のグループワークなどを通して、磨かれてきました。「自治研を楽しく身近に」「初心者や若者、地

域の人を巻き込む」「宮城だからこそできること」などの意見から、体験型・参加型の企画や被災地の生の声を聴く機会などが練られました。分科会は、地連ごとの検討でした、希望テーマを選択し、各地域で積極的に集まり討議が交わされてきました。どこかにある答えを探すわけではない自治研の、難しさと楽しさのなかで、今日に至っていると思います。

なかなか普段地域に飛び込む機会のない組合活動のなかで、自治研はそのハードルを軽々と越えていきます。参加してもらおうなら会議室も飛び出して地域を感じてもらおう、という気持ちで集いを企画する皆さんにも共通してありましたね。



自治労静岡県本部自治研中央推進委員
佐野ひかる

Q3

自治研中央推進委員のみなさんの熱い議論のなかから
企画された宮城自治研ならではの、
お勧めの一番のポイントをおしえてください。

佐野●それぞれのテーマに沿ったワールドワークがいろんな分科会で行われます。ここまで多いのは宮城自治研がはじめてだと聞いています。仙台市内にはたくさんのお店街が賑わっており、そこには地域を支える源があります。



にしお・よしゆき●一九七九年愛知県名古屋市長生まれ。大学在学中より、国賠訴訟等の支援活動に携わる。二〇〇五年に宇和島市役所に入職し、愛媛にアイトーン。その後、国への出向や福祉・企画・税務部門などに従事したのち、二〇一四年四月から二年間県本部専従。二〇一六年四月からは宇和島市国土調査課に在籍し、非専従県本部書記長。

ぜひ参加されるみなさん

には、仙台の街のいいところ、もちろん美味しいものであったり、その地域に住まう人たちとの触れ合いだったりを堪能してもらいながら学んで帰ってほしいですね。

西尾●「東北の、全国からの復興支援に対する感謝と、今後とも力強く生きていく決意を感じられること」が私の宮城自治研ならではのポイントです。全体集会だ

けでなく、新しい試みである前夜祭やワールドワークなど、現地のさまざまなところで感じられるはずです。
集会日程のなかでは、ゆつくり考える余裕はないかもしれませんが、この東北の想いに寄り添うことは、自らの「生きる・地域・くらし・命」などについて考える素材になるのではと想っています。佐賀自治研の時の煉瓦積みの話が、私にとってはそうでした。

Q4

企画段階から関わってこられたお一人は、
宮城自治研集會に何を期待されますか。
そして、宮城自治研集會に
全国から参加される方への期待もお聞かせください。

佐野●この集會で学んだことがそれで終わらずに、単組に帰って何かしらの成果や結果に繋がることです。しかし、「単組に帰ったところで自分ひとりだととても何か出来る状況にない」といった方もいると思います。組合活動は、どれも決してひとりでは行えま



せん。だからこそ、そこで出会った人たちとの繋がりを帰ってほしいと考えています。組合は、困っていたら必ず手を差し伸べてくれる組織です。そういう意味では、県本部などの上部団体をいい意味でうまく利用してくれればいいのかなんて思います。

西尾●五年目の「今」から、過去を見つめ、未来を見渡す。そんなスケールを持った全国集會になると期待しています。東北の感謝と決意は、東北の底力に勇気をもたらした私たちの感謝であり、ともに未来に向かって進む私たちの決意でもあると

さのひかる●一九八八年静岡県生まれ。二〇〇八年静岡県富士宮市役所に入職。二〇〇九年八月より富士宮市職員組合執行部になり、青年部や女性部活動に携わる。二〇一五年四月より自治労静岡県本部専従。静岡県本部では、自治研をはじめ男女平等参画や教宣部を主に担当。



思います。
みんなが元気になる全国集會になることを期待しています。

そしてなにより、参加者の方こそ、この集會の主役です。一緒にこの集會を創っていただけ「あなた」に期待と感謝をしています。それぞれの心に残る何か、地域に帰ることが出来る何か、一つでも見つかることを期待しています。